

シイタケを手際よく収穫する入居者



養護老人ホームナザレ園（茨城）

入居者がシイタケ栽培

役割つくって健康維持

茨城県那珂市にある養護老人ホーム「ナザレ園」（社会福祉法人ナザレ園、菊池義理事長）では、入居者がシイタケの菌床栽培を行い、収穫したシイタケを地元のスーパーマーケットで販売している。唐辛子やジャガイモの栽培、まき作りなども行っており、入居者が活動する機会をつ

くって心身の健康維持につなげている。菌床は、おがくずや米ぬかなどで固めたブロックに、シイタケの種が打たれているもので、敷地内の農業用ビニールハウスで約1000個を育てている。シイタケは肉厚で直径7センチほどになると収穫できる。発芽から収穫までは1週間程度で、一つの菌床から次々と成長するため、入居者は毎日のように成長具合を確認しながら収穫している。1日最大約500個採れることもある。収穫したシイタケを販売用に袋詰めするのも入居者の役割となっている。

また、ハウス内の温度は約23～25度に保ち、1日3回の水まきが欠かせない。こうしたシイタケの成長に最適な環境は入居者が小まめに観察することで分かった。

入居者はほかにも、施設浴槽用に井戸水を沸かすのに使うまき作りや、法人内の複数の施設で出た生ゴミを有機肥料にする取り組みにも関わる。

勝山ふち美施設長は「入居者の役割をつくるのが大事。入居者の中には刑余者が増え、役割があることで再犯を防ぐことにもなる」と話している。

（榎戸新）